

爽涼

そ
う
り
や
う



さわやかで涼しい気候のこと。
日中も涼しさを感じることができるよう
になってから使われる言葉。
「さわやかな秋の季節になりましたね」
と挨拶でも使われます。

昔の暦上では、**残暑**がおよそ
9月上旬頃から中旬にかけて
使われる言葉ですが、近年の
残暑は長引いていますね。



次作に向けての土づくりを開始し、連作障害対策としてもひまわり
栽培を実施。ねぎの為ではありますが、せっかく栽培するなら地域
の方にも楽しんでもらおうと迷路を作ったり、「綺麗なので欲しい」
という声をいただき無人販売所を設置。予想よりも好評で、地域の方
々とねぎや栽培についてお話できたり、夏の思い出ができました。

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を
少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

一番暑い夏の京都を過ぎた、夏葱のお届け

主に、丹後・美山で6月に定植した育ったねぎのお届け。
今年は梅雨が短く、定植する環境としては良く、定植直後も
すくすくと成長してくれました。また、7～8月と暑い日が続き
ねぎにとっても農人にとっても辛い夏になりましたが、丹後と美
山は暑いながらも心地よい風が吹き、京都市内に比べて気温
も低く、この暑さの中でも元気よく育ちました。スラッとして色もキレイな夏葱をお届けす
ることができます。蒸し暑さの中、日々の管理に心を注いで生産した味わいを、是非。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

産地リレーの強みと向日葵の思い出

局所的に豪雨が多い夏。今や毎年が異常気象、露地栽培をする
私たちとして今年も悩まされています。お盆明けに京都でも豪
雨があり、美山圃場で大きな被害がでてしまいました。これか
らお届けする予定だったねぎが多く倒伏。直後であれば、すぐ
に収穫しても商品として出荷することができますが、倒れ方によ
っては3日も過ぎると商品価値がなくなってしまいます。そう
なってしまったねぎは、一度根本を残してカットし、また再
生するのを待ち、2ヶ月後の出荷に合わせてもう一度育てていくこととなります。美山では残念な結果になりました
が、こういった被害をカバーするのが他産地で育てたねぎです！丹後方面は雨の被害もそれほどなく、産地リレーを
行っている強みを感じ、出荷が続けられることに農人一同、ホッとしています。



夏の京都市内は、盆地で京都の中でも特に蒸し暑く、ねぎ栽培が難しくなる時。
無人販売のきっかけになったひまわり畑は、1週間と少しの期間限定でしたが、
土に動き込みました。またこの畑にねぎ畑が広がる頃、色々と学びを得られた
夏の無人販売所を
思い出しそうです。

とある日の農人日記。

早朝出勤し、5時過ぎ頃、日中はあまりみかけない農家の方々が作業されていました。作業効率や夏の
身体の負担を考えると自然の摂理に沿って人間も活動していることを感じました。(市内エリア・大石)

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

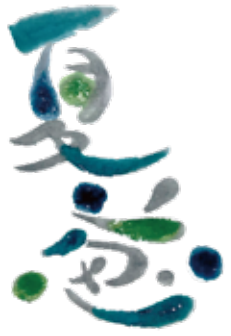
NO.184

2022年9月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A



こと京都市は
「野菜を食べよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。